

CASBEE京都-新築(2011年版)		■使用評価マニュアル: CASBEE 京都-新築 (2011年)		■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1)				
スコアシート		実施設計段階		欄に数値またはコメントを記入				
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境								2.8
1 音環境				3.0	0.40	2.8	1.00	2.8
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50	
2 隣室騒音対策				-	-	-	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	2.6	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	2.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	-	1.0	-	
2 温熱環境				2.6	0.35	3.0	1.00	2.8
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63	
2 湿度・熱・空気環境				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38	
4 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	
5 温度・湿度調整				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間帯・用途・気象による調整				-	-	-	-	
8 監視・調整				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				2.5	0.25	2.7	1.00	2.6
3.1 昼光利用				3.0	0.30	2.0	0.30	
1 昼光率				3.0	0.60	1.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 遮光器具の設置				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				1.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.0	0.25	3.0	1.00	3.0
4.1 発生源対策				3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	3.0	1.00	
2 放射線対策				-	-	-	-	
3 臭気対策				-	-	-	-	
4 有害物質対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気調整				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5
1 機能性				2.2	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.7	0.31	-	-	2.7
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性				1.8	0.19			
1	空調・換気設備			1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			1.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.1	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり			3.0	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	3.0	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					0.30			2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A(全国版準用)	1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)	2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								2.8
LR1 エネルギー					0.40			3.0
1 建築物の熱負荷抑制				3.0	0.40			3.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	2.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				3.2	0.40			3.2
集合住宅以外の評価(ERLによる評価)				#VALUE!	5.0			
集合住宅の評価					3.2			
4 効率的運用								
4.1	モニタリング			3.0	-			
4.2	運用管理体制			3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					0.30			2.7
1 水資源保護				2.2	0.15			2.2
1.1 節水				1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00			
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.2	-			
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A(全国版準用) B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22			2.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68			
1	消火剤			2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33			
3	冷媒			3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					0.30			2.5
1 地球温暖化への配慮				3.2	0.33			3.2
2 地域環境への配慮				1.8	0.33			1.8
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)	1.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1	騒音			3.0	0.33			
2	振動			3.0	0.33			
3	悪臭			3.0	0.33			
3.2 風害、日照障害の抑制				3.0	0.40			
1	風害の抑制			3.0	0.70			
2	砂塵の抑制							
3	日照障害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				1.6	0.20			
1	窓枠明度及び室内照明のブラインド・遮れる光への対策			1.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともを使う 「自然」:自然からつくる